

# なごや看護学会 第2回学術集会ダイジェスト

令和元年11月30日になごや看護学会 第2回学術集会が名古屋市立大学病院で開催されました。

愛知県内や県外から100名を超える参加者が来場され、特別講演では愛知県看護協会の鈴木正子会長に講演いただきました。

一般演題として実践報告・研究報告など8題の演題が集まり、各施設での取り組みの成果を報告いただきました。



## 【基調講演・特別講演】

基調講演では、学術集会会長の名古屋市立大学病院 小黒智恵子看護部長より、今大会のテーマでもあります、「人々の健康と生活を支える～私たちにできること～」について講演いただきました。



特別講演では、愛知県看護協会 鈴木正子会長より、「これからの看護職員の役割」について講演いただきました。



### 私たちにできること

#### 1. それぞれの場面で看護の力を発揮する

確かな看護スキル 「生活の質」の視点 地域マネジメント

看護の本質⇒すき間のないケアの提供  
継続教育・生涯学習⇒看護実践能力の向上

#### 2. 医療提供体制の変化(誰が行うのか)に対応する

ICT・AIやロボットの開発や導入は進行中  
タスクシフト・タスクシェア⇒教育体制と安全確保が重要  
『量』と『質』のバランス

#### 3. 明確な『言葉』で表現して伝える・発信する

カンファレンス 学会発表 実践報告

「できること」と「できないこと」(限界を見極める・知る)

#### 4. 実践を通じて、お互いを理解し共に進んでいく

基礎教育⇄現任教育 看護職⇄対象者(利用者・多職種)

### これからの看護師の役割

#### 看護師の役割

■24時間を通じ、患者の最も身近にいる医療専門職として第一線で、状態の変化を即座に察知し、必要な医療・看護をタイムリーに提供

■常に予防的視点に立ち、尊厳を持ってその人らしく生活できるようその人の生きる力を引き出しながら支援

■チーム医療のキーパーソンとして、「医療」と「生活」の両方の視点を持って全体を見通し、状態の変化に合わせて、必要な時に必要なサービスが提供されるよう、医療・介護などのサービスを統合的にマネジメントして暮らしをまもる

■穏やかに死を迎えられるように支援

Aichi Nursing Association

\* \* \* \* \*

## 【演題発表：実践報告・研究報告】

各施設より8題の演題発表が行われました。

### ●実践報告

座長：日高 橘子（名古屋市中区保健福祉センター）

・循環器内科病棟におけるせん妄ケア  
ーせん妄評価スケールの導入ー  
小野寺 美佳  
(名古屋市立大学病院)

・申し送り改善への取り組み  
井手 晶子  
(名古屋市立大学病院)



<p>・名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院看護部の地域に向けた取り組み 白川 淳 (名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院)</p> 	<p>・訪問看護ステーションにおける病院看護師研修受け入れの実践報告 －訪問看護ステーション看護師の追跡調査より－ 森 理香 (名古屋市北区訪問看護ステーション)</p> 
--	---

●研究報告

座長：浅野 妙子（名古屋学芸大学）

<p>・化学放射線治療を受ける中咽頭・下咽頭癌患者における嚥下間接訓練の有用性の検討 井澤 史恵 (名古屋市立大学病院)</p> 	<p>・新卒看護師が感じた PNS の効果 － PNS 導入後の思いから－ 山田 真穂 (名古屋市立西部医療センター)</p> 
<p>・内服薬の患者自己管理にむけての必要な取り組みの検討 前野 綾菜 (名古屋市立大学病院)</p> 	<p>・看護師の転倒転落予防判断力の向上に向けた判断基準の作成とスタッフ教育の効果 筒井 典子 (名古屋市立大学病院)</p> 

\* \* \* \* \*

皆様のご協力のもと、第2回学術集会を無事に終えることができました。なごや看護学会の役員の方を始め、第2回学術集会の企画委員・実行委員の皆様、発表者の方々のお力添えを頂きまして深く感謝申し上げます。

第3回学術集会は、令和2年12月5日(土)です。多くの方の参加をお待ちしています。



第2回学術集会 企画・実行委員 平原広登（名古屋市立大学病院）